

南山大学人類学博物館

# 年 報

2012 年度

南山大学人類学博物館

## 巻頭言

昨年度（2012年度）の大きな出来事として、明治大学博物館・名古屋市博物館とのコラボレーションによる「驚きの博物館コレクション展 時を超え、世界を駆ける好奇心」を開催したことが挙げられる。大学博物館と公立博物館の合同展示という試みは珍しい。

この展覧会では、いくつかのことを試みてみた。一つは全体の構成で、歴史系の展示の常道である「時系列」の配列をやめることにした。二つ目は、解説の仕方である。解説それ自体はややトピックス的につけ、さらに書店でよく見かけるポップをいくつか配置して、見てほしい点を強調してみた。

このほかにもいくつかの新たなことを試みたわけだが、そこで気になるのは来館者の評価である。これについてはアンケート調査を実施し、来館者の声をすくい上げていた。また、会期終了後に近隣の博物館・美術館の関係者に来てもらい、展示評もしてもらった。われわれの試みが、どのように見られているのか検証しようと思ったのである。

全体としては、概ね好評価だったように思う。しかし、ある意味予想できたことではあるが、わかりにくい、という評価は一般来館者および博物館関係者の双方から出てきた。このことは真摯に受け止める必要がある。1年という時間をかけて準備したとはいえ、やはり3つの博物館が協同するのは難しく、至るところで詰めの甘さが目立ったことは事実であるし、新しい試みをするのであれば、様々な点での配慮も必要だったのである。

だが、そのことを認めたくえで考えてみたい。「わかりやすい」とはどういうことか？と。博物館学の教科書をみれば、わかりやすい展示の要件は説明されている。しかし、「わかる」とはどういうことかを教えてくれるものはほとんどないと言ってよい。

来館者の意見から考えてみると、一般の人が「わかりやすい」と感じるのは自分の持っている知識や経験の範囲内で判断がつくコトやモノに対してではないだろうか。だが考えてみたら、そのような「わかりやすさ」というのは、自分の知識や経験の再確認にすぎず、そこから新鮮な驚きや知的興奮は生まれてこない。そういう意味では、今回の特別展のテーマである「驚きの…」を実現するためには「わかりやすい」展示とは違った路線が必要だったのであり、この展示は「わかりにくい」という評価は、逆説的かもしれないが、我々の展示意図に適った評価ともいえるのである。

これは開き直りと受け取られるかもしれない。だが、博物館の原点は何か、ということを考えてとき、敢えて「わかりにくく」しておくことも必要なのではないか。

2013年6月  
南山大学人類学博物館

## 目次

1. 2012年度の人類学博物館の活動	1
(1) 教育普及活動	1
① 展示	1
② 講座	1
③ 出前授業	1
④ 連携授業	2
⑤ 博物館実習	2
(2) 調査・研究活動	3
① 調査出張	3
② 研究活動	3
(3) 資料の収集・整備と利用	4
① 受贈資料	4
② 保存処理	4
③ 燻蒸の実施	4
④ 購入図書	4
⑤ 受贈図書数	4
⑥ 資料貸出	4
⑦ 取材・調査のための来館者一覧	5
⑧ 撮影・他機関刊行物等への掲載	5
⑨ 当館紹介刊行物一覧	6
(4) 出版活動	6
2. 組織と運営	7
(1) 組織	7
(2) 開館・入館者実績	7
① 開館日数・入館者数	7
② 入館団体内訳	7
3. 規程	9
(1) 南山大学人類学博物館規程	9
(2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程	10
(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程	11

## 1. 2012 年度の人類学博物館の活動

### (1) 教育普及活動

#### ① 展示

明治大学博物館・南山大学人類学博物館交流事業

名古屋市博物館・明治大学博物館・南山大学人類学博物館合同特別展

「驚きの博物館コレクション展 一時を越え、世界を駆ける好奇心ー」

会期：2013年2月2日（土）～3月17日（日） 9：30～17：00

会場：名古屋市博物館 特別展示室

総来場者数：13,083名

ワークショップ：2月16日（土）

担当：黒沢 浩（南山大学教授）

ギャラリートーク：2月16日（土）、3月9日（土）、10日（日）

担当：黒沢 浩（南山大学教授）、竹尾 美里（南山大学人類学博物館）、

西川 由佳里（南山大学人類学博物館）

#### ② 講座

博物館の本来的な機能である普及事業の一環として、南山大学学生を含めた一般の方々を対象として、フィールドワークを開催した。

フィールドワークは東海地方の考古学的な遺跡を現地で観察し、実感していただけるような機会を提供することを目的としている。当館所蔵資料と関係の深い遺跡を中心に各地を巡り、現地で観察することによって、当館の展示のより深い理解へと繋げる契機ともなっている。本年度は、定員10名に対して16名の申し込みがあった。

#### 2012年度フィールドワーク『東海の考古遺跡を歩く 2012』

第1回 10月27日（土）事前指導 講師：黒沢 浩（南山大学教授）

第2回 11月4日（日） 昼飯大塚古墳と船木山古墳群

現地講師：中谷 正和 氏（大垣市教育委員会）

恩田 知美氏（本巣市教育委員会）

第3回 11月18日（日）岡崎市岩津周辺古墳群一矢作川流域の古墳

現地講師：伊藤 久美子 氏・荒井 信貴 氏（岡崎市美術博物館）

第4回 12月2日（日）刈谷の貝塚を歩く

現地講師：鶴飼 堅証 氏（刈谷市教育委員会）

第5回 12月8日（土）事後指導 講師：黒沢 浩（南山大学教授）

申込者数：16名

#### ③ 出前授業

単位校からの要請により、出前授業を行なった。課外授業の一環として、博物館資料を用いたワークショップ形式の授業を単位校内において開催した。

1) 「博物館は楽し！ ～南山大学人類学博物館から土偶がやってくる～」

講師：竹尾 美里（南山大学人類学博物館）、西川 由佳里（南山大学人類学博物館）

日時：2012年10月26日（金）

場所：南山高等学校女子部 社会科教室

参加者：8名

2) 「博物館は楽し！ ～南山大学人類学博物館から民族資料がやってくる～」

講師：竹尾 美里（南山大学人類学博物館）、西川 由佳里（南山大学人類学博物館）

日時：2012年12月1日（土）

場所：南山高等学校女子部 社会科教室

参加者：7名

#### ④ 連携授業

人類学博物館と名城大学附属高等学校との学習連携が始まって、今年で7年目を迎える。

今年度は「日本文化」の授業において、収蔵・展示されている資料を用いて可視的かつ具体的に考えることに加え、「日本文化」という概念が想像（創造）されたものである、という視点を持てるよう指導を行った。また、文化的に実体といえるようなものはなく、世界中の様々な文化も、歴史的に形成されたものであるとする今日の人類学・歴史学・考古学に基づき、過去の日本文化も過去の「異文化」と位置づけ扱った。様々な側面を持つ物事を、一方向的な見方ではなく、複眼的な思考を可能にする見方を身につけることを目的とした。

さらに今回の授業の総括として、各自が選択したテーマに関する発表を行わせた。成果を多くの人に評価してもらおう機会を作ると同時に、プレゼンテーションの難しさや楽しさを学ぶ機会を提供した。

連携授業は以下の日程で行なった。

10月9日（火）：趣旨説明・意見聴取→文化って何？

課題提供：モノから物語を創造／想像する

10月16日（火）：授業（博物館資料でたどる日本の歴史）

自分のアイデアをまとめる方法（KJ法の実施）

10月30日（火）：研究室訪問

博物館資料の観察（考古資料の観察とスケッチ・写真 観察の方法の習得）

11月6日（火）：授業（昭和の一品／逸品）

11月13日（火）：課題発表（概要）→意見交換

11月20日（火）：成果発表準備

12月4日（火）：成果発表準備

12月11日（火）：成果発表

#### ⑤ 博物館実習

他大学からの学外博物館実習生受入れを実施しており、本年度は愛知学院大学から2名を受け入れた。

## **(2) 調査・研究活動**

### **① 調査出張**

1) 全国歴史民俗系博物館協議会 研究集会

日時：2012年6月14日(木)

内容：全国歴史民俗系博物館協議会主催 第1回研究集会「博物館の危機管理」への参加。

出張者：竹尾 美里

2) 愛知県博物館協会総会

日時：2012年6月26日(火)

内容：愛知県博物館協会主催「平成24年度 愛知県博物館協会総会」への参加。

出張者：西川 由佳里

3) 著作権実務講習会

日時：2012年9月5日(水)～7日(金)

内容：文化庁主催「平成24年度図書館等職員著作権実務講習会」への参加。

出張者：西川 由佳里

4) 学芸員照明研究会

日時：2012年10月15日(月)

内容：パナソニック電工汐留ミュージアム主催「第12回学芸員照明研究会」への参加。

出張者：竹尾 美里

5) 日本展示学会 国際シンポジウム

日時：2012年11月17日(土)

内容：日本展示学会創立30周年記念国際シンポジウムへの参加。

出張者：西川 由佳里

### **② 研究活動**

#### 資料調査

各分野の専門家を招聘し、人類学博物館所蔵資料に関する諸情報を聴取した。

1) 2012年6月30日(土)実施

講師：吉野 晃 氏(東京学芸大学教育学部教授)、紙村 徹 氏(神戸市看護大学准教授)

場所：名古屋キャンパス G棟 人類学博物館

2) 2012年11月3日(土)実施

講師：稲村 務 氏(琉球大学法文学部教授)

場所：名古屋キャンパス G棟 人類学博物館

### (3) 資料の収集・整備と利用

#### ① 受贈資料

1. 内藤 克彦 氏より、Pocket Calculater 1点
2. 内藤 克彦 氏より、SUN HEMMI JAPAN FB No.255 1点

#### ② 保存処理

鉄刀片 1点 (井守塚古墳)、鉄刀 1点 (城山古墳)

#### ③ 燻蒸の実施

2012年8月25日(土) (館内全域)

2013年1月7日(月) (包み込み燻蒸)

2013年3月15日(金) (収蔵庫のみ)

#### ④ 購入図書

27冊

#### ⑤ 受贈図書数

発掘調査報告書	一般図書・紀要・年報・図録・研究報告等	たより類
816	875	326

#### ⑥ 資料貸出

貸出先	資料名・点数	貸出期間	目的
農と縄文の体験実習館 なじよもん	馬高遺跡出土土器 263点、石器 3点	2012年1月10日～ 2013年1月10日	平成24年度農と縄文の体験実習館秋季企画展での展示及び資料調査
名古屋市博物館	大須二子山古墳出土資料 36点 山ノ田古墳出土資料 6点 八幡山古墳出土資料 1点	2012年4月2日～ 2012年6月30日	企画展「尾張氏☆志段味古墳群をときあかす」
國學院大學文学部教授 青木 豊 氏	魔鏡 1点	2012年5月12日	魔鏡の研究での使用
高槻市立今城塚古代歴史館	大須二子山古墳出土資料 10点	2012年10月6日～ 2012年12月2日	平成24年度秋季特別展「よみがえる煌き—今城塚古墳の副葬品」
安城市歴史博物館併設 安城市民ギャラリー	白山藪古墳出土資料一式	2012年8月23日～ 2012年10月20日	第7回安祥文化のさとまつり文化財展『知りたい! 姫小川古墳』

⑦取材・調査のための来館者一覧

来館者名	資料名・点数	実施日
高槻市立今城塚古代歴史館	大須二子山古墳出土資料 10 点	2012 年 7 月 3 日
安城市教育委員会	白山藪古墳出土資料一式 白山藪古墳調査写真一式	2012 年 8 月 3 日
愛知県埋蔵文化財センター 川添 和暁 氏	伊川津貝塚出土 牙製垂飾 1 点	2013 年 3 月 29 日

⑧ 撮影・他機関刊行物等への掲載

機関名	資料名	刊行物名等	刊行予定
元興寺文化財研究所	大須二子山古墳出土 挂甲 1 点	第 34 回文化財保存修復学会 大会ポスター、要旨集 国際組紐学会 (Braids 2012 Conference) 要旨集	2012 年 6 月 30 日 ～ 2012 年 8 月 19 日
朝日新聞社 文化くらし報道部	姥山貝塚出土 縄文土器	朝日新聞 科学医療面 「古代の生活浮き彫り 新分 析法 産地や食べもの特定」	2012 年 5 月 21 日
津南町教育委員会	馬高遺跡出土 土器 262 点、 石器 3 点	『予稿集 三十稲場式土器文 化の世界』津南学叢書第 18 輯	2012 年 9 月 8 日
高槻市立今城塚古代 歴史館	大須二子山古墳出土 資料 8 点、 甲冑実測図 4 点	秋季特別展『よみがえる古代 の煌きー副葬品にみる今城塚 古墳の時代』 図録掲載、パネル展示	2012 年 10 月
株式会社清水弘文堂 書房	花輪台貝塚出土 土偶 1 点	『芸術と環境(仮)』(早川陽著 アサヒ・エコ・ブックスシリ ーズ)	2012 年 12 月中旬
国際電気通信基礎研 究所 西尾 修一 氏	入海貝塚出土 土偶 1 点	HAI シンポジウム 2012 の発表 スライド内で使用	2012 年 12 月 7 日
株式会社浜島書店	礫石器、打製石器、 骨角器、石包丁	『アカデミア世界史』『ニュ ーステージ世界史詳覧』 (世界史資料集)	2013 年 4 月 1 日
株式会社小学館クリ エイティブ	花輪台貝塚出土 土偶 1 点	『一冊でわかるイラストでわ かる 図解古代史』 (成美堂出版)	2013 年 4 月予定



Fondo Editorial de la Asamblea Nacional de Rectores	アンデス画像コレクション (Ragchi-Copacabana 2001)	『Tomoeda Archivo etnografico. Ragchi-Copacabana 』	2013年3月予定
株式会社CTV MID ENJIN	弥生時代の石包丁の写真 名古屋市瑞穂(完形) 浅井郡川合(半形)	河合塾サテライト講座 「日本史」 DVD および動画データ内資料	2013年2月貸出
明治大学博物館	2008年開催特別展 「G. グロート神父と 日本考古学研究所」 展示室風景写真	『博物館資料の再生－自明性 への問いとコレクションの文化 資源化－』(明治大学博物 館・南山大学人類学博物館編)	2013年3月
元興寺文化財研究所	大須二子山古墳出土 挂甲1点	『クテ打組紐技法入門 応用 編』(木下雅子・クテ打組紐 技法研究会著)	2013年3月20日
株式会社CTV MID ENJIN	弥生時代の石包丁の写真 浅井郡川合(半形)	河合塾サテライト講座 「2013 センター試験対策 日本史B」DVD 内資料	2013年3月貸出
豊田市郷土資料館	市塚古墳出土 ヤリガンナ実測図	『平成24年度市内遺跡発掘 調査事業概要報告書』	2013年3月
名古屋市市政資料館	南山聖堂古窯出土品 実測図	『新修名古屋市史 資料編 考古2』	2013年3月

#### ⑨ 当館紹介刊行物一覧

機関名	内容	刊行物名
朝日新聞社	紹介文・写真	『朝日新聞』2012年10月8日刊行

#### (4) 出版活動

1. 『南山大学人類学博物館紀要』第31号
2. 『南山大学人類学博物館年報 2011年度』
3. 『明治大学博物館・南山大学人類学博物館・名古屋市博物館 合同特別展図録  
驚きの博物館コレクション展 一時を越え、世界を駆ける好奇心ー』
4. 『博物館資料の再生－自明性への問いとコレクションの文化資源化ー』

## 2. 組織と運営

### (1) 組織

#### 1) 職員

館長	青木 清	(副学長 (教学担当) / 法学部教授)
担当教員	黒沢 浩	(人文学部人類文化学科教授)
特別嘱託職員	竹尾 美里	(学芸員)
	西川 由佳里	(学芸員)
臨時職員	手塚 朋子	(2013年3月31日退職)
	東 夕子	(2013年3月31日退職)
	吉留 正樹	(2013年3月31日退職)

#### 2) 博物館運営委員会

委員長	黒沢 浩	(人文学部教授)
委員	西江 清高	(博物館学芸員養成課程委員会委員長)
	加藤 隆浩	(外国語学部教授)
	大塚 達朗	(人文学部教授)
	濱田 琢司	(人文学部日本文化学科准教授)
	大川 隆	(教育・研究支援事務室長) (2012年)

#### 3) 資料評価委員会

委員長	大塚 達朗	(人文学部教授)
委員	加藤 隆浩	(外国語学部教授)
委員	後藤 明	(人文学部教授)

### (2) 開館・入館者実績

#### ①開館日数・入館者数

開館日数	入館者数 (授業以外)	団体数	団体人数
26	527	3	226

#### ②入館団体内訳

##### ・大学見学

日付	団体名	人数	担当課室
4月19日	名古屋市立名東高等学校	57	入試課
4月19日	三重県私立高田高等学校	67	入試課
4月27日	愛知県立岩倉総合高等学校	42	入試課

・大学見学以外の団体

日付	団体名	人数
4月26日	愛知県立総合看護専門学校	81
5月23日	名古屋大学博物館	41
6月29日～30日	神奈川大学 プロジェクト研究所 ヤオ族文化研究所	4

### 3. 規程

#### (1) 南山大学人類学博物館規程

(目的)

第1条 南山大学学則第44条の2にもとづき、南山大学に南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）を置く。

② 博物館は、「人類学（文化資源学、考古学、民俗学および民族学を含む。）」（以下「人類学」という。）に関する資料の収集、調査、解析、収蔵、管理、保存、展示、公開などを行ない、南山大学の学生、職員および社会の利用に供し、教育・研究に資することを目的とする。

③ 博物館の組織および運営については、この規程の定めるところによる。

(事業)

第2条 前条第2項の目的を達成するため、博物館は、次の各号に掲げる事業を行う。

- 1 人類学に係る調査、収集、保存、管理および解析
- 2 人類学の展示および公開
- 3 人類学に関する情報提供
- 4 人類学に関する教育研究の支援
- 5 博物館所蔵資料を利用した生涯学習の企画および運営
- 6 博物館および博物館に従事する職員の資質向上に寄与する学芸員の養成

(館長)

第3条 博物館に館長を置く。館長は副学長（教学担当）とする。

② 館長は、博物館の事業を統轄し、博物館を代表する。

(担当教員)

第4条 博物館に博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）を置く。

② 担当教員は、博物館活動の企画・運営に従事する。

③ 担当教員は、学長が指名する候補者について、大学評議会の承認を得て委嘱する。

(運営委員会)

第5条 博物館の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定する機関として南山大学人類学博物館運営委員会（以下「運営委員会」という。）を置く。

② 運営委員会に関する規程は、別に定める。

(資料評価委員会)

第5条の2 第2条第1項第1号に定める収集事業を適正に遂行するために、南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「資料評価委員会」という。）を置く。

② 資料評価委員会に関する規程は、別に定める。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑則)

第7条 この規程に定めるもののほか、博物館の運営について必要な事項は、運営委員会の議を経て、館長が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

## (2) 南山大学人類学博物館運営委員会規程

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館運営委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）の運営に関する重要事項を協議し、諸事全般を決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

- 1 博物館担当教育職員（以下「担当教員」という。）
- 2 博物館学芸員養成課程委員会委員長
- 3 学長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を経て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、次の各号に掲げる事項を所掌する。

- 1 博物館の予算（案）および決算（案）に関する事項
- 2 博物館資料の収集選択に関する事項
- 3 博物館関係規程の制定または改廃に関する事項
- 4 博物館の事業に関する事項
- 5 その他博物館の管理運営に関する重要事項

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、担当教員をもってあてる。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、特に定めのある場合のほか、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規定の改正)

第6条 この規定の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2005年4月1日から施行する。

附 則

この規程の改正は、2006年7月1日から施行する。

### **(3) 南山大学人類学博物館資料評価委員会規程**

(目 的)

第1条 南山大学人類学博物館資料評価委員会（以下「委員会」という。）は、南山大学人類学博物館規程第5条の2にもとづき、南山大学人類学博物館（以下「博物館」という。）において行なう博物館資料の収集に関する事項を協議し、決定することを目的とする。

(組 織)

第2条 委員会は、次の各号に掲げる委員で組織する。

1 南山大学人類学博物館運営委員会委員2名

2 博物館長より指名された者若干名

② 委員は、大学評議会の承認を得て、学長が委嘱する。

③ 委員の任期は、2年とし、再任を妨げない。ただし、後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(所掌事項)

第3条 委員会は、博物館資料の寄贈の申入れについて、南山大学人類学博物館運営委員会の諮問に基づき、その可否を審議、決定する。

(議事運営)

第4条 委員会に委員長を置き、委員の互選により選出する。

② 委員長は、委員会を招集し、その議長となる。

③ 委員長に支障のあるときは、あらかじめ委員長の指名する委員がその職務を代行する。

④ 委員会は、委員の過半数の出席をもって成立し、出席者の過半数をもって議決する。

⑤ 委員会は、必要があるときは、委員以外の者の出席を求めて意見を聴くことができる。

(事 務)

第5条 委員会の事務は、教育・研究支援事務室が担当する。

(規程の改正)

第6条 この規程の改正は、大学評議会の承認を得なければならない。

(雑 則)

第7条 この規程に定めるもののほか、委員会の運営について必要な事項は、委員会が別に定める。

附 則

この規程は、2006年7月1日から施行する。

# NANZAN UNIVERSITY

2013年 6月 3日 印刷

2013年 6月 3日 発行

南山大学人類学博物館年報 2012年度

編集・発行 南山大学人類学博物館

466-8673 名古屋市昭和区山里町18

phone 052 (832) 3111 内線 5223

印刷 株式会社ウエルオン

460-0007 名古屋市中区新栄3-21-31

TEL 052 (732) 2227